

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B1)

(11)特許番号  
特許第7324552号  
(P7324552)

(45)発行日 令和5年8月10日(2023.8.10)

(24)登録日 令和5年8月2日(2023.8.2)

(51)国際特許分類

F I

A 6 3 B 55/57 (2015.01)

A 6 3 B 55/57

A 6 3 B 102/32 (2015.01)

A 6 3 B 102:32

請求項の数 10 (全22頁)

|          |                           |          |                                                   |
|----------|---------------------------|----------|---------------------------------------------------|
| (21)出願番号 | 特願2023-21128(P2023-21128) | (73)特許権者 | 523055617<br>株式会社シャンロン<br>東京都港区赤坂二丁目丁 1 7 番 6 5 号 |
| (22)出願日  | 令和5年2月14日(2023.2.14)      | (74)代理人  | 110001379<br>弁理士法人大島特許事務所                         |
| 審査請求日    | 令和5年3月21日(2023.3.21)      | (72)発明者  | 慎 ▲海▼竜<br>東京都港区赤坂二丁目丁 1 7 番 6 5 号<br>株式会社シャンロン内   |
| 早期審査対象出願 |                           | 審査官      | 榎 俊秋                                              |
|          |                           | 最終頁に続く   |                                                   |

(54)【発明の名称】 ゴルフバッグ及びフレーム

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ゴルフクラブが挿入されるゴルフバッグ本体と、  
前記ゴルフバッグ本体を上側に開口が位置するように支持するフレーム本体と、  
待機位置及び前記フレーム本体を支持可能な展開位置の間で変位可能に、前記フレーム  
本体の一方の側にて枢支された一対の脚と、  
前記フレーム本体の他方の側の上部にて、所定方向に変位可能に設けられた操作部材と、  
前記操作部材の変位によって、前記脚を前記待機位置から前記展開位置に変位させる伝  
達部材とを備え、  
前記伝達部材は、前記脚と前記操作部材とを接続し、且つ、少なくとも一部において前  
記開口の側縁に沿って延在するワイヤを含むゴルフバッグ。

10

【請求項 2】

前記脚は前記フレーム本体に回転可能に支持され、  
前記操作部材の前記所定方向の変位によって、前記脚は前記ワイヤに引っ張られて回転  
し、前記待機位置から前記展開位置に変位する請求項 1 に記載のゴルフバッグ。

【請求項 3】

前記フレーム本体は前記ゴルフバッグ本体の前記開口の側縁に沿って前記延在する上枠  
を含み、  
前記ワイヤは前記上枠に沿って延在する部分を含む請求項 1 に記載のゴルフバッグ。

【請求項 4】

20

前記上枠は中空のパイプ材によって構成され、

前記ワイヤは前記上枠の内部に挿通されている請求項 3 に記載のゴルフバッグ。

【請求項 5】

前記上枠は左右に配置された一対の左右枠を有し、

前記操作部材は前記左右枠の間にて、2つの前記左右枠に、前記脚が前記待機位置となる前位置と、前記脚が前記展開位置となる後位置とに変位可能に支持され、

前記脚は対応する回転軸を中心に前記フレーム本体に回転可能に支持され、

前記操作部材は、前記後位置にあるときに、前記前位置にあるときよりも、前記回転軸から離れた位置にある請求項 3 に記載のゴルフバッグ。

【請求項 6】

前記ワイヤは両端において前記脚に接続され、前記操作部材に掛け止めされている請求項 5 に記載のゴルフバッグ。

【請求項 7】

前記上枠の前記他方の側の端部には下方に延びる支柱が設けられ、

前記操作部材と前記支柱とはグリップ部材によって接続されている請求項 5 に記載のゴルフバッグ。

【請求項 8】

前記操作部材には前記他方の側の端部にて下方に延出するグリップ部が設けられている請求項 1 に記載のゴルフバッグ。

【請求項 9】

前記フレーム本体には、前記脚を前記待機位置に向けて付勢する付勢部材を更に備える請求項 1 ~ 請求項 8 のいずれか 1 つの項に記載のゴルフバッグ。

【請求項 10】

ゴルフバッグ用のフレームであって、

ゴルフクラブが挿入されるゴルフバッグ本体を上側に開口が位置するように支持するフレーム本体と、

待機位置及び前記フレーム本体を支持可能な展開位置の間に変位可能に、前記フレーム本体の一方の側にて枢支された一対の脚と、

前記フレーム本体の他方の側の上にて、所定方向に変位可能に設けられた操作部材と、

前記操作部材の変位によって、前記脚を前記待機位置から前記展開位置に変位させる伝達部材とを備え、

前記伝達部材は、前記脚と前記操作部材とを接続し、且つ、少なくとも一部において前記開口の側縁に沿って延在するワイヤを含むフレーム。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本開示は、ゴルフバッグ及びゴルフバッグ用のフレームに関する。

【背景技術】

【0002】

ゴルフクラブを収納するゴルフバッグであって、格納可能な支持部材を備えたものが公知である（例えば、特許文献 1）。特許文献 1 のゴルフバッグは、ゴルフクラブが収容される本体と、該本体を受け入れるフレームとを備えている。

【0003】

フレームには底部に回転可能に設けられた押圧部材と、フレームに回転可能に接続された支持部材（スタンド）とが設けられている。

【0004】

ゴルフバッグを傾斜させると、底部に設けられた押圧部材が地面によって押圧される。これにより、弾性部材を介して支持部材が押圧され、支持部材が回転してフレームから突出して開いた状態となる。ユーザが支持部材を開いたまま、その先端を地面に当接させると、支持部材によってゴルフバッグは地面に対して傾斜した状態で支持される。

10

20

30

40

50

【先行技術文献】

【特許文献】

【 0 0 0 5 】

【文献】特許第 3 8 9 7 6 9 3 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【 0 0 0 6 】

しかしながら、ゴルフバッグが載置される地面は平坦であるとは限らない。そのため、特許文献 1 のゴルフバッグでは、地面の状態によっては、ゴルフバッグを傾斜させても、押圧部材が十分に押圧されず、支持部材（脚）が開かれない虞がある。

10

【 0 0 0 7 】

本発明は、以上の背景に鑑み、ゴルフバッグ本体を支持する展開位置に変位可能な脚を備え、脚を容易に展開位置に変位させることができるゴルフバッグ及びゴルフバッグ用のフレームを提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 8 】

上記課題を解決するために本発明のある態様は、ゴルフバッグ（1）であって、ゴルフクラブが挿入されるゴルフバッグ本体（3）と、前記ゴルフバッグ本体を上側に開口（7）が位置するように支持するフレーム本体（15）と、待機位置及び前記フレーム本体を支持可能な展開位置の間に変位可能に、前記フレーム本体の一方の側にて枢支された一対の脚（17、17A、17B）と、前記フレーム本体の他方の側の上部にて、所定方向に変位可能に設けられた操作部材（19）と、前記操作部材の変位によって、前記脚を前記待機位置から前記展開位置に変位させるべく、少なくとも一部において前記開口の側縁に沿って延在する伝達部材（49）と、を有する。

20

【 0 0 0 9 】

この態様によれば、脚を展開位置に変位させるための操作部材がフレーム本体の上部に設けられるため、脚を容易に展開位置に変位させることができるゴルフバッグを提供できる。更に、伝達部材が開口の側縁に沿って延在するため、伝達部材によって開口が狭められることが防止できる。

【 0 0 1 0 】

30

上記の態様において、好ましくは、前記フレーム本体は前記ゴルフバッグ本体の前記開口の側縁に沿って前記延在する上枠（25）を含み、前記伝達部材は前記上枠に沿って延在するワイヤ状をなす。

【 0 0 1 1 】

この態様によれば、伝達部材が開口に沿って延在する上枠に沿うため、伝達部材によって開口が狭められることが防止できる。

【 0 0 1 2 】

上記の態様において、好ましくは、前記上枠は中空のパイプ材によって構成され、前記伝達部材は前記上枠の内部に挿通されている。

【 0 0 1 3 】

40

この態様によれば、伝達部材によってゴルフバッグ本体の開口が狭められることが防止できる。

【 0 0 1 4 】

上記の態様において、好ましくは、前記上枠は左右に配置された一対の左右枠（25A、25B）を有し、前記操作部材は前記左右枠の間にて、2つの前記左右枠に、前記脚が前記待機位置となる前位置と、前記脚が前記展開位置となる後位置とに変位可能に支持されている。

【 0 0 1 5 】

この態様によれば、操作部材の操作が容易であり、且つ、意匠性の高いゴルフバッグを提供できる。

50

## 【 0 0 1 6 】

上記の態様において、好ましくは、前記伝達部材は両端において前記脚に接続され、前記操作部材に掛け止めされている。

## 【 0 0 1 7 】

この態様によれば、1つの操作部材の変位によって、2つの脚を展開位置に変位させることができる。

## 【 0 0 1 8 】

上記の態様において、好ましくは、前記上枠の前記他方の側の端部には下方に延びる支柱(31)が設けられ、前記操作部材と前記支柱とはグリップ部材(201)によって接続されている。

10

## 【 0 0 1 9 】

この態様によれば、グリップ部材を把持することで、脚を容易に操作することができる。

## 【 0 0 2 0 】

上記の態様において、好ましくは、前記操作部材には前記他方の側の端部にて下方に延出するグリップ部が設けられている。

## 【 0 0 2 1 】

この態様によれば、グリップ部(19D)を把持することで、脚を容易に操作することができる。

## 【 0 0 2 2 】

上記の態様において、好ましくは、前記フレーム本体には、前記脚を前記待機位置に向けて付勢する付勢部材(53)を更に備える。

20

## 【 0 0 2 3 】

この態様によれば、ゴルフバッグが若干傾いたときにも、付勢部材の付勢力によって脚が待機位置に維持される。そのため、例えば、ゴルフバッグの運搬時に意図せず脚が待機位置に変位することが防止できる。

## 【 0 0 2 4 】

上記課題を解決するために本発明のある態様は、ゴルフバッグ(1)用のフレーム(5)であって、ゴルフクラブが挿入されるゴルフバッグ本体(3)を上側に開口(7)が位置するように支持するフレーム本体(15)と、待機位置及び前記フレーム本体を支持可能な展開位置の間で変位可能に、前記フレーム本体の一方の側にて枢支された一対の脚(17、17A、17B)と、前記フレーム本体の他方の側の上部にて、所定方向に変位可能に設けられた操作部材(19)と、前記操作部材の変位によって、前記脚を前記待機位置から前記展開位置に変位させるべく、少なくとも一部において前記開口の側縁に沿って延在する伝達部材と、を有する。

30

## 【 0 0 2 5 】

この態様によれば、脚を展開位置に変位させるための操作部材がフレーム本体の上部に設けられるため、脚を容易に展開位置に変位させることができるゴルフバッグ用のフレームを提供できる。更に、伝達部材が開口の側縁に沿って延在するため、伝達部材によって開口が狭められることが防止できる。

## 【 発明の効果 】

40

## 【 0 0 2 6 】

以上の態様によれば、ゴルフバッグ本体を支持する展開位置に変位可能な脚を備え、脚を容易に展開位置に変位させることができるゴルフバッグ及びゴルフバッグ用のフレームを提供することができる。

## 【 図面の簡単な説明 】

## 【 0 0 2 7 】

【 図 1 】 第 1 実施形態に係るゴルフバッグの斜視図

【 図 2 】 脚が待機位置にあるときのフレームの斜視図

【 図 3 】 フレームの上部を前方から見たときの斜視図

【 図 4 】 フレームの上部を後方から見たときの斜視図

50

【図 5】脚が展開位置にあるときのフレームの斜視図

【図 6】フレームの分解斜視図

【図 7】(A)付勢部材 5 3 及び接続部 4 3 の結合部分の分解斜視図と、(B)結合部分の側面図

【図 8】第 2 実施形態に係るゴルフバッグのフレームの上部を後方から見たときの斜視図

【図 9】第 3 実施形態に係るゴルフバッグのフレームの上部を前方から見たときの斜視図

【図 10】第 3 実施形態に係る操作部材の一部の分解斜視図

【図 11】第 3 実施形態に係るゴルフバッグのフレームの変形例

【図 12】第 3 実施形態に係るゴルフバッグのフレームの変形例

【図 13】第 3 実施形態に係るゴルフバッグのフレームの変形例

10

【発明を実施するための形態】

【0028】

以下、図面を参照して、本発明に係るゴルフバッグ及びゴルフバッグ用フレームの実施形態について説明する。

【0029】

ゴルフバッグ 1 は主として、ユーザがゴルフクラブを運搬するために使用される。以下、ゴルフバッグ 1 がいわゆるキャディバッグを構成する場合を例示して説明する。

【0030】

<<第 1 実施形態>>

図 1 に示すように、ゴルフバッグ 1 は、ゴルフバッグ本体 3 と、フレーム 5 とを有している。

20

【0031】

ゴルフバッグ本体 3 は開口 7 を備えた袋状をなしている。ゴルフバッグ本体 3 は可撓性を有する布部材によって構成されているとよい。ゴルフバッグ本体 3 は適所にてフレーム 5 に固定されることにより、有底な筒状をなす。ゴルフクラブはユーザによって開口 7 からゴルフバッグ本体 3 の内部に挿入されて、ゴルフバッグ本体 3 に収納される。ゴルフバッグ本体 3 の外周面には図示しない肩掛け用のベルトや、ボールやティ・マーカ等を収納するための収納部が設けられていてもよい。

【0032】

以下、説明の便宜上、図 1 に示すように、ゴルフバッグ本体 3 の開口 7 が上側に位置する状態を基準として上下の各方向を定めて説明を行う。但し、これらの方向は説明の便宜上定めたものであって、本発明はこの方向の記載には限定されない。

30

【0033】

ゴルフバッグ本体 3 の開口 7 には環状の口枠 9 が設けられているとよい。口枠 9 は布部材により覆われているとよい。その他、ゴルフバッグ本体 3 には、その内部を仕切る板状の仕切壁 11 が設けられているとよい。仕切壁 11 はゴルフバッグ本体 3 の内部を区切る態様であれば、いかなる態様であってもよい。

【0034】

図 2 に示すように、フレーム 5 は、フレーム本体 15 と、フレーム本体 15 に設けられた脚 17 及び操作部材 19 とを備える。

40

【0035】

以下、図 1 及び図 2 に示すように、フレーム 5 の脚 17 が設けられている側を前方とし、それを基準として、前後左右の各方向を定めて説明を行う。但し、これらの方向は説明の便宜上定めたものであって、本発明はこの方向の記載には限定されない。

【0036】

フレーム本体 15 はゴルフバッグ 1 の骨格を形成する。図 1 に示すように、フレーム本体 15 にはゴルフバッグ本体 3 の適所が固定され、フレーム本体 15 はゴルフバッグ本体 3 を上側に開口 7 が位置するように支持する。

【0037】

図 2 に示すように、フレーム本体 15 は、パイプ材によって構成された主部 21 と、主

50

部 2 1 に結合された副部 2 3 とを備えている。

【 0 0 3 8 】

主部 2 1 は、その上部を構成する上枠 2 5 と、その下部を構成する下枠 2 7 と、下枠 2 7 に設けられた接続部 2 9 と、上枠 2 5 及び下枠 2 7 を接続する複数の支柱 3 1 とを備えている。上枠 2 5 はゴルフバッグ本体 3 の上部、すなわち、口枠 9 の径外側にて開口 7 の側縁に沿って延在し、所定方向に向けて開く略 U 字状をなしている。下枠 2 7 はゴルフバッグ本体 3 の下部の外側にて、ゴルフバッグ本体 3 の下縁に沿って延在し、上枠 2 5 と同じ方向に向けて開く略 U 字状をなしている。

【 0 0 3 9 】

上枠 2 5 は左枠 2 5 A、右枠 2 5 B 及び後枠 2 5 C を有している。左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B はそれぞれ略前後方向に延び、左右に間隔をおいて配置されている。後枠 2 5 C は左枠 2 5 A の後端及び右枠 2 5 B の後端を接続している。

10

【 0 0 4 0 】

下枠 2 7 もまた左枠 2 7 A、右枠 2 7 B 及び後枠 2 7 C を有している。左枠 2 7 A 及び右枠 2 7 B はそれぞれ略前後方向に延び、左右に間隔をおいて配置されている。後枠 2 7 C は左枠 2 7 A の後端及び右枠 2 7 B の後端を接続している。本実施形態では、下枠 2 7 の左枠 2 7 A 及び右枠 2 7 B の間の距離は、上枠 2 5 の左枠 2 5 A 及び右枠 2 7 B の間の距離よりも大きく、下枠 2 7 の左右方向の幅は、上枠 2 5 の左右方向の幅よりも大きい。

【 0 0 4 1 】

接続部 2 9 は左右に延び、左端において下枠 2 7 の左枠 2 7 A に、右端において下枠 2 7 の右枠 2 7 B にそれぞれ接続されている。本実施形態では、主部 2 1 は前接続部 2 9 A 及び後接続部 2 9 B の 2 つの接続部 2 9 を含み、前接続部 2 9 A と後接続部 2 9 B はそれぞれ前後に並んで配置されている。前接続部 2 9 A 及び後接続部 2 9 B は下枠 2 7 の左枠 2 7 A 及び下枠 2 7 の右枠 2 7 B をそれぞれ接続している。

20

【 0 0 4 2 】

主部 2 1 は支柱 3 1 として、第 1 支柱 3 1 A、第 2 支柱 3 1 B、第 3 支柱 3 1 C 及び第 4 支柱 3 1 D の 4 つの支柱 3 1 を有する。但し、本発明は、主部 2 1 の有する支柱 3 1 の数には限定されない。第 1 支柱 3 1 A 及び第 2 支柱 3 1 B は左右に並んで配置され、第 3 支柱 3 1 C 及び第 4 支柱 3 1 D はそれぞれ第 1 支柱 3 1 A 及び第 2 支柱 3 1 B の前方にて左右に並んで配置されている。

30

【 0 0 4 3 】

第 1 支柱 3 1 A 及び第 2 支柱 3 1 B はそれぞれ下方に延び、略中央部において屈曲して、斜め前下方に延びた後、更に屈曲して下方に延びている。換言すれば、第 1 支柱 3 1 A 及び第 2 支柱 3 1 B は下端から上方に延び、略中央部にて後上方に延びた後、更に屈曲して上方に延びている。これにより、第 1 支柱 3 1 A 及び第 2 支柱 3 1 B はそれぞれ上部に後方に膨出した膨出部 3 1 E を備えている。第 1 支柱 3 1 A 及び第 2 支柱 3 1 B は上端にて上枠 2 5 にそれぞれ結合され、下端にて後接続部 2 9 B の左右端にそれぞれ結合されている。

【 0 0 4 4 】

第 3 支柱 3 1 C 及び第 4 支柱 3 1 D はそれぞれ上下方向に略直線状に延びている。第 3 支柱 3 1 C 及び第 4 支柱 3 1 D はそれぞれ、上枠 2 5 の左右前端と、下枠 2 7 の左右前端とを接続している。但し、これらの支柱 3 1 の形状はゴルフバッグ本体 3 の形状や大きさに応じて設定されてもよい。

40

【 0 0 4 5 】

上枠 2 5、下枠 2 7、第 1 支柱 3 1 A、第 2 支柱 3 1 B、第 3 支柱 3 1 C 及び第 4 支柱 3 1 D によってゴルフバッグ本体 3 を収容する収容空間 3 2 が画定されている。

【 0 0 4 6 】

本実施形態では、上枠 2 5、下枠 2 7、第 3 支柱 3 1 C 及び第 4 支柱 3 1 D は、曲げ加工された中空のパイプ材が連続した態様をなすように接続されることによって構成されている。前接続部 2 9 A 及び後接続部 2 9 B はそれぞれ 1 つのパイプ材によって構成され、

50

左右端部において下枠 2 7 に接続されている。第 3 支柱 3 1 C 及び第 4 支柱 3 1 D もまたそれぞれ 1 つのパイプ材によって構成され、上端において上枠 2 5 に、下端において後連接部 2 9 B にそれぞれ接続されている。上枠 2 5、下枠 2 7、第 3 支柱 3 1 C 及び第 4 支柱 3 1 D を構成するパイプ材は、ねじによる締結や溶接等のいかなる方法によって接続されていてもよい。また前連接部 2 9 A、後連接部 2 9 B、第 3 支柱 3 1 C 及び第 4 支柱 3 1 D を構成するパイプ材もまた、上枠 2 5 や下枠 2 7 に、ねじによる締結や溶接等のいかなる方法によって接続されていてもよい。

【 0 0 4 7 】

本実施形態では、主部 2 1 はアルミニウム製のパイプ材に、アルミニウム製又は樹脂製のパーツを嵌め合わせて連結させることによって構成されている。これにより、ゴルフバ

10

【 0 0 4 8 】

副部 2 3 は主部 2 1 を補強することや、また、機能部をフレーム本体 1 5 に構成することを目的として、主部 2 1 に設けられる。本実施形態では、フレーム本体 1 5 は、副部 2 3 として、フレーム本体 1 5 の前部に設けられる第 1 副部 3 3 及び第 2 副部 3 5 と、フレーム本体 1 5 の後部に設けられる第 3 副部 3 7 とを備えている。

【 0 0 4 9 】

第 1 副部 3 3 は主部 2 1 の前側上部に設けられる。第 1 副部 3 3 は左右に延在して第 3 支柱 3 1 C の上部と第 4 支柱 3 1 D の上部とを接続する。本実施形態では、第 1 副部 3 3 は、前方を向く主面を有する中央部 3 3 A と、中央部 3 3 A の左端に設けられ第 3 支柱 3 1 C に結合された左端部 3 3 B と、中央部 3 3 A の右端に設けられ第 4 支柱 3 1 D に結合された右端部 3 3 C とを備えている。第 1 副部 3 3 は樹脂製の部材によって構成されていてもよく、また、金属製の部材によって構成されていてもよい。本実施形態では、第 1 副部 3 3 は樹脂製の部材によって構成されている。

20

【 0 0 5 0 】

第 2 副部 3 5 は主部 2 1 の前側中央部分に設けられる。第 2 副部 3 5 は左右に延在して第 3 支柱 3 1 C の上下方向中央部分と第 4 支柱 3 1 D の上下方向中央部分とを接続する。本実施形態では、第 2 副部 3 5 は、前方を向く主面を有する板状の中央部 3 5 A と、中央部 3 5 A の左端に設けられ第 3 支柱 3 1 C に結合された左端部 3 5 B と、中央部 3 5 A の右端に設けられ第 4 支柱 3 1 D に結合された右端部 3 5 C とを備えている。第 2 副部 3 5 は樹脂製の部材によって構成されていてもよく、また、金属製の部材によって構成されていてもよい。本実施形態では、第 2 副部 3 5 は金属製のパイプ材によって構成されている。

30

【 0 0 5 1 】

第 3 副部 3 7 は主部 2 1 の後部に設けられる。第 3 副部 3 7 は左右方向に延在し上下に対をなすように配置され一対の横部 3 7 A と、上下に延在して上下端においてそれぞれ横部 3 7 A の左右方向略中央部に接続された縦部 3 7 B と、を備えている。上側の横部 3 7 A は上枠 2 5 の後枠 2 5 C に結合されている。上側の横部 3 7 A は後枠 2 5 C の外周面を覆うように配置されて、後枠 2 5 C に結合されている。下側の横部 3 7 A は左端において第 1 支柱 3 1 A に結合され、右端において第 2 支柱 3 1 B に結合されている。第 3 副部 3 7 はユーザがゴルフバッグ 1 を持ち上げるための把持部を構成する。本実施形態では、第 3 副部 3 7 は樹脂製の部材によって構成されている。

40

【 0 0 5 2 】

フレーム 5 には左右一対の脚 1 7 が設けられている。図 3 及び図 4 に示すように、脚 1 7 はそれぞれフレーム本体 1 5 の前側に枢支されている。これにより、脚 1 7 はそれぞれ上端において回転軸 4 1 においてフレーム本体 1 5 の前部に回転可能に支持されている。本実施形態では、左側に位置する脚 1 7 (以下、左脚 1 7 A) の回転軸 4 1 A は左斜め前方向に延びるように設定され、右側に位置する脚 1 7 (以下、右脚 1 7 B) の回転軸 4 1 B は右斜め前方向に延びるように設定されている。左脚 1 7 A はフレーム本体 1 5 の前部の左側部に、右脚 1 7 B はフレーム本体 1 5 の前部の右側部にそれぞれ、回転可能に支持されている。本実施形態では、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B は左右対称をなすように構成

50

されている。

【 0 0 5 3 】

本実施形態では、図 2 に示すように、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B はそれぞれ、第 1 副部 3 3 の前側左右側部にそれぞれ回動可能に連結された接続部 4 3 と、直管状に形成され、一端（上端）において接続部 4 3 に連結された脚本体 4 5 と、を備えている。図 4 に示すように、接続部 4 3 と、第 1 副部 3 3 とは、回転軸 4 1 に沿って延在する支持体 4 7 によって接続されている。支持体 4 7 の一端は第 1 副部 3 3 によって回動可能に支持され、支持体 4 7 の他端は接続部 4 3 に固定されているとよい。これにより、接続部 4 3 と第 1 副部 3 3 とは互いに回転軸 4 1 の回りに回動可能に連結されている。

【 0 0 5 4 】

本実施形態では、図 2 に示すように、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B はそれぞれ、脚本体 4 5 の他端（下端）に設けられ、脚本体 4 5 の開口部分を封止する封止部材 4 5 A（キャップ）を備えている。脚本体 4 5 は金属製（例えば、アルミニウム製）のパイプ材によって構成され、封止部材 4 5 A は樹脂製の部材によって構成されているとよい。

【 0 0 5 5 】

脚 1 7 はそれぞれ回転によって、図 2 に示す待機位置（閉位置ともいう）と、図 5 に示す展開位置（開位置や拡開位置ともいう）との間で変位可能となっている。待機位置にあるときには、脚 1 7 はそれぞれ垂下してその下端がゴルフバッグ本体 3 に近接した位置にある。一方、展開位置にあるとき、脚 1 7 はそれぞれ待機位置よりもその下端が前方に位置し、下端がゴルフバッグ本体 3 から離れた位置にある。脚 1 7 がそれぞれ展開位置にあるときに、ゴルフバッグ 1 を傾けて、脚 1 7 それぞれの下端を地面に当接させると、フレーム 5 及びゴルフバッグ本体 3 はともに脚 1 7 によって支持される。

【 0 0 5 6 】

左脚 1 7 A の下端は展開位置にあるとき、待機位置にあるときに比べて左前方に位置し、右脚 1 7 B の下端は展開位置にあるとき、待機位置にあるときに比べて右前方に位置している。これにより、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B がともに展開位置にあるときには、右脚 1 7 B 及び左脚 1 7 A がともに待機位置にあるときに比べて、左脚 1 7 A の下端と右脚 1 7 B の下端との距離が長くなっている。

【 0 0 5 7 】

操作部材 1 9（レバーやハンドルともいう）は脚 1 7 を待機位置から展開位置に変位させるためのユーザの操作入力を受け付ける。操作部材 1 9 は、フレーム本体 1 5 の後側上部にて、前後方向に変位可能に支持されている（図 2 及び図 5 も参照）。

【 0 0 5 8 】

本実施形態では、図 3 に示すように、操作部材 1 9 は上枠 2 5 の左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B の間に位置している。操作部材 1 9 は左右両端において左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B にそれぞれ前後方向に摺動可能に支持されている。本実施形態では、操作部材 1 9 は左右方向に延在する中央部 1 9 A と、中央部 1 9 A 左端において左枠 2 5 A の右側面に摺接する左端部 1 9 B と、中央部 1 9 A 右端において右枠 2 5 B の左側面に摺接する右端部 1 9 C とを含む。

【 0 0 5 9 】

このように、操作部材 1 9 は左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B の間（すなわち、左右枠の間）において左右方向に延在するように設けられている。そのため、操作部材 1 9 が比較的大きくすることができ、ユーザが操作部材 1 9 を把持し易くすることができるため、操作部材 1 9 の操作性が向上する。また、操作部材 1 9 がフレーム本体 1 5 の外部に突出せず、ゴルフバッグ 1 の意匠性の高めることができる。

【 0 0 6 0 】

図 6 に示すように、左端部 1 9 B は左枠 2 5 A の右側面に整合する管状をなし、右端部 1 9 C は右枠 2 5 B の左側面に整合する管状をなしている。図 3 に示すように、左端部 1 9 B と右端部 1 9 C とはそれぞれ左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B に摺動可能に構成されている。中央部 1 9 A の前面中央部分には、ユーザが指を引っ掛けて握るためのグリップ 1 9 D

10

20

30

40

50

(グリップ部)が設けられているとよい。グリップ１９Ｄが設けられることによって、操作部材１９を容易に後方に引くことができるため、脚１７の操作が容易になる。

【００６１】

図３及び図６に示すように、フレーム５には操作部材１９の操作力を左右の脚１７それぞれに伝える伝達部材４９が設けられている。詳細には、伝達部材４９は、操作部材１９の後方への変位によって、左右の脚１７をそれぞれ回転させて、待機位置から展開位置に変位させる。

【００６２】

以下、脚１７が待機位置にあるときの操作部材１９の位置を前位置と記載し、脚１７が展開位置となるとき操作部材１９の位置をそれぞれ後位置と記載する。操作部材１９は左枠２５Ａ及び右枠２５Ｂの間にて、前位置と後位置との間で変位可能に支持されている。

10

【００６３】

図６に示すように、伝達部材４９は、操作部材１９及び左脚１７Ａと、操作部材１９及び右脚１７Ｂとをそれぞれ連結する連結部材５１を含む。連結部材５１は一つ又は複数のワイヤ(索状部材、ケーブルともいう)によって構成されているとよい。

【００６４】

本実施形態では、伝達部材４９は、筒状のアウトケーシングと、アウトケーシングの内部に収容された内部ケーブルとを含むフレキシブルケーブル(いわゆるボーデンケーブル)によって構成され、その内部ケーブルが連結部材５１に相当する。

【００６５】

20

図３に示すように、連結部材５１は両端において脚１７に接続されている。本実施形態では、連結部材５１の端部は、回転軸４１の上方向から回転軸４１の前方を通過して下方に延び、回転軸４１よりも下側にて脚１７(詳細には、接続部４３)に接続されている。これにより、連結部材５１の引張力によって、脚１７はそれぞれ待機位置から展開位置に変位するように回転する。

【００６６】

図４に示すように、連結部材５１は中央部分において操作部材１９の後側面に掛け止められて、操作部材１９に結合されている。

【００６７】

図３に示すように、連結部材５１は端部と中央部分との間において上枠２５(詳細には、左枠２５Ａ及び右枠２５Ｂ)に沿うように配置されている。これにより、伝達部材４９(詳細には、伝達部材４９の一部)は上枠２５に沿って配置され、ゴルフバッグ本体３の開口７の側縁に沿って延在している。

30

【００６８】

上枠２５の左枠２５Ａ及び右枠２５Ｂには、連結部材５１を内部に導入するための貫通孔５５が適所に設けられている。連結部材５１のうち上枠２５の左枠２５Ａに沿う部分はその貫通孔５５を介して、左枠２５Ａの内部に侵入している。これにより、連結部材５１のうち上枠２５の左枠２５Ａに沿う部分の少なくとも一部は、上枠２５の左枠２５Ａの内部に挿通されている。連結部材５１のうち上枠２５の右枠２５Ｂに沿う部分はその貫通孔５５を介して、右枠２５Ｂの内部に侵入している。連結部材５１のうち上枠２５の右枠２５Ｂに沿う部分の少なくとも一部もまた、上枠２５の右枠２５Ｂの内部に挿通されている。

40

【００６９】

操作部材１９が前位置(図２参照)にあるときから、後位置(図５参照)に移動すると、連結部材５１の中央部分が後方に引っ張られる。これにより、連結部材５１の両端が後方に引っ張られて、左右の脚１７がそれぞれ回転軸４１を中心として回転して待機位置から展開位置に変位する。

【００７０】

図２に示すように、フレーム５には、更に、付勢部材５３が設けられている。付勢部材５３は、脚１７を待機位置に向けて付勢する。付勢部材５３は、左右の脚１７の回転軸４１それぞれに設けられたねじりコイルばねや各種の弾性部材によって構成されていてもよ

50

い。

【 0 0 7 1 】

付勢部材 5 3 は、左右の脚 1 7 の下端（外端）を互いに近接する方向に付勢するように構成されていてもよい。展開位置にあるときには、右脚 1 7 B の下端と左脚 1 7 A の下端との距離が待機位置にあるときに比べて長いために、左右の脚 1 7 の下端（外端）を互いに近接する方向に付勢することで、右脚 1 7 B 及び左脚 1 7 A はそれぞれ付勢部材 5 3 によって待機位置に向けて付勢されることになる。

【 0 0 7 2 】

本実施形態では、付勢部材 5 3 は、折曲加工された中実の金属製の棒状部材によって構成されている。棒状部材は、左右の脚 1 7 の下端（外端）を互いに近接する方向に付勢する弾性部材として機能する。

10

【 0 0 7 3 】

詳細には、付勢部材 5 3 は左端において左脚 1 7 A に接続され、右下方に延びた左半部 5 3 A と、右端において右脚 1 7 B に接続され、左下方に延びた右半部 5 3 B と、左右に延びて左半部 5 3 A の下端及び右半部 5 3 B の下端を接続する中央部 5 3 C とを備えている。付勢部材 5 3（詳細には、左半部 5 3 A の上端）は左端において、左脚 1 7 A の回転軸 4 1 よりも下方（下端側）に連結され、付勢部材 5 3（詳細には、右半部 5 3 B の上端）は右端において、右脚 1 7 B の回転軸 4 1 よりも下方（下端側）に連結されている。

【 0 0 7 4 】

左脚 1 7 A と右脚 1 7 B とがそれぞれ待機位置から展開位置に変位すると、左半部 5 3 A の上端と、右半部 5 3 B の上端とがそれぞれ離れる方向に引っ張られる。そのため、付勢部材 5 3 は左半部 5 3 A の上端と、右半部 5 3 B の上端とを近づけるように付勢力を発揮する。これにより、左脚 1 7 A と右脚 1 7 B とがそれぞれ待機位置になるように付勢される。

20

【 0 0 7 5 】

本実施形態では、付勢部材 5 3 の両端部がそれぞれ、接続部 4 3 に設けられた貫通孔に挿入されることで、付勢部材 5 3 が接続部 4 3 に結合している。付勢部材 5 3 の端部に連結部材 5 1 が結合されることによって、連結部材 5 1 は接続部 4 3 に結合している。

【 0 0 7 6 】

図 7（A）は、別実施例に係る、付勢部材 5 3 及び接続部 4 3 の結合部分 1 0 1 の分解斜視図を示し、図 7（B）は結合部分 1 0 1 の側面図（二点鎖線内参照）を示している。

30

【 0 0 7 7 】

図 7（A）及び図 7（B）に示す別実施例では、結合部分 1 0 1 には、筒状のカラー 1 0 3 が設けられている。付勢部材 7 3 は端部において、カラー 1 0 3 の内孔 1 0 3 A と、接続部 4 3 に設けられた貫通孔 4 3 A とを順に通過している。付勢部材 7 3 の挿入端には封止部材 1 0 5 が設けられている。これにより、付勢部材 7 3 が接続部 4 3 の貫通孔 4 3 A から抜け落ちることが防止できる。

【 0 0 7 8 】

図 7（A）に示すように、カラー 1 0 3 は貫通孔 1 0 7 A を有する円筒状のカラー本体 1 0 7 と、カラー本体 1 0 7 の貫通孔 1 0 7 A に挿入される筒状の筒部材 1 0 9 とを含む。カラー本体 1 0 7 はゴム製の部材によって構成されているとよい。筒部材 1 0 9 は金属製の部材によって構成されている。筒部材 1 0 9 の内孔 1 0 9 A は付勢部材 7 3 の外径よりも若干大きい。筒部材 1 0 9 の内孔 1 0 9 A には付勢部材 7 3 が挿入され、その挿入端に封止部材 1 0 5 が設けられることによって、カラー 1 0 3 は付勢部材 7 3 の端部に回動可能に支持されている。

40

【 0 0 7 9 】

カラー本体 1 0 7 の外周には溝 1 0 7 B が形成されている。連結部材 5 1 の端部には円環状の掛止部 5 1 A が結合されている。掛止部 5 1 A がカラー本体 1 0 7 の溝 1 0 7 B に收容されることによって、連結部材 5 1 はカラー 1 0 3 に掛け止めされている。これにより、連結部材 5 1 が付勢部材 5 3 の端部に結合されている。

50

## 【 0 0 8 0 】

第 2 副部 3 5 には付勢部材 5 3 を收容するための收容部 5 7 が設けられている。收容部 5 7 は第 2 副部 3 5 と協働して、付勢部材 5 3 の下部の一部（詳細には、左半部 5 3 A の下部及び右半部 5 3 B の下部）を收容するポケット 5 9 を構成する。ポケット 5 9 に付勢部材 5 3 の下部の一部が收容されることによって、付勢部材 5 3 の下部が前方に突出することが防止される。

## 【 0 0 8 1 】

その他、付勢部材 5 3 には、左半部 5 3 A 及び右半部 5 3 B を近づけた状態で保持する保持部材 6 1 が設けられている。保持部材 6 1 は左半部 5 3 A 及び右半部 5 3 B に対して上下方向に摺動可能に構成されている。保持部材 6 1 は左半部 5 3 A 及び右半部 5 3 B の前側に設けられた前部材 6 1 A と、左半部 5 3 A 及び右半部 5 3 B の後側に設けられた後部材 6 1 B とをねじ止めすることによって構成されているとよい。保持部材 6 1 の位置を上下方向に変更することによって、ユーザは付勢部材 5 3 が発揮する付勢力を適切な大きさに設定することができる。

10

## 【 0 0 8 2 】

次に、このように構成したゴルフバッグ 1 及びフレーム 5 の動作について説明する。

## 【 0 0 8 3 】

ゴルフバッグ 1 が起立し、上方に向けて開口 7 が位置しているときには、図 1 に示すように、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B はともに、待機位置となっている。

## 【 0 0 8 4 】

ユーザが操作部材 1 9 を把持して後方に引くと、操作部材 1 9 の後面に掛け止めされた連結部材 5 1 が後方に引っ張られる。これにより、連結部材 5 1 の左右両端が引っ張られ、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B がそれぞれ対応する回転軸 4 1 を中心に回転する。操作部材 1 9 が後位置まで引っ張られると、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B がそれぞれ展開位置となる。

20

## 【 0 0 8 5 】

ユーザが操作部材 1 9 を把持して後位置に維持したまま、ゴルフバッグ 1 の上部を前方に向けて傾けて、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B の下端をそれぞれ地面に当接させる。これにより、図 5 に示すように、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B が開かれ、それぞれ下端が地面に当接したまま、フレーム 5 及びゴルフバッグ本体 3 は左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B によって支持される。

30

## 【 0 0 8 6 】

次に、ユーザが、ゴルフバッグ 1 の前端を後方に傾けて、ゴルフバッグ 1 を起立させると、付勢部材 5 3 による付勢力によって、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B はそれぞれ展開位置から回転して、下方に垂下し、展開を待機する待機位置となる。

## 【 0 0 8 7 】

起立したゴルフバッグ 1 が若干前方に傾いたときには、付勢部材 5 3 の付勢力によって左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B はそれぞれ互いに近接した待機位置に維持される。これにより、ゴルフバッグ 1 の運搬時に意図せず脚 1 7 が開かれることが防止できる。

## 【 0 0 8 8 】

次に、このように構成したゴルフバッグ 1 及びフレーム 5 の効果について説明する。

40

## 【 0 0 8 9 】

このように、操作部材 1 9 を操作することによって、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B を同時に待機位置から展開位置に変位（移動）させることができる。

## 【 0 0 9 0 】

操作部材 1 9 は上枠 2 5 に設けられているため、フレーム本体 1 5 の上部に位置している。そのため、脚 1 7 を開くために操作すべき部材がフレーム本体 1 5 の下部に設けられている場合に比べて、脚 1 7 を開くための操作が容易である。また、脚 1 7 はフレーム本体 1 5 の前側（一方の側）に位置し、操作部材 1 9 はフレーム本体 1 5 上部の後側（他方の側）に位置している。そのため、操作部材 1 9 がフレーム本体 1 5 上部の前側に位置している場合に比べて、脚 1 7 の展開位置への移動を妨げることなく、操作部材 1 9 を操

50

作することができる。

【 0 0 9 1 】

連結部材 5 1 は一部において、フレーム本体 1 5 ( 詳細には上枠 2 5 ) に沿って延在しているため、連結部材 5 1 が上面視で本体の開口 7 に横切るように配置されず、ゴルフバッグ本体 3 の開口 7 が連結部材 5 1 によって狭められることが防止できる。よって、ゴルフバッグ 1 へのゴルフクラブの収納が容易になる。

【 0 0 9 2 】

上枠 2 5 は中空のパイプ材によって構成され、連結部材 5 1 は上枠 2 5 の左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B の内部にそれぞれ挿通されている。これにより、連結部材 5 1 が露出せず、ゴルフバッグ ( 及びフレーム 5 ) の意匠性が高められるとともに、連結部材 5 1 によって

10

【 0 0 9 3 】

連結部材 5 1 は両端において左右の脚 1 7 にそれぞれ接続され、中央部分において操作部材 1 9 の後側面に掛け止めされている。そのため、ユーザは 1 つの操作部材 1 9 を後方に引くことによって、左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B の 2 つの脚 1 7 を同時に展開位置に変位させることができる。

【 0 0 9 4 】

本実施形態では、連結部材 5 1 が 1 本のワイヤによって構成されているため、伝達部材 4 9 を操作部材 1 9 及び左脚 1 7 A を接続するワイヤと、操作部材 1 9 及び右脚 1 7 B を接続するワイヤとの 2 つのワイヤで構成する場合に比べて、ワイヤを固定するための固定部の数を低減することができ、フレーム 5 の構成が簡素になる。

20

【 0 0 9 5 】

< < 第 2 実施形態 > >

第 2 実施形態に係るゴルフバッグ 1 及びゴルフバッグ 1 用のフレーム 5 は、図 8 に示すように、第 1 実施形態とは異なり、操作部材 1 9 が第 3 副部 3 7 に設けられている点と、連結部材 5 1 の配設構造とが異なり、他の構成は第 1 実施形態と同様である。よって、第 1 実施形態と同様の構成については、説明を省略する。

【 0 0 9 6 】

操作部材 1 9 は第 3 副部 3 7 に上下方向に変位可能に支持されている。操作部材 1 9 は第 3 副部 3 7 の横部 3 7 A の背面から後方に突出する突出部 6 3 を備えているとよい。

30

【 0 0 9 7 】

連結部材 5 1 は第 1 実施形態と同様にワイヤ状の部材であり、両端において左脚 1 7 A 及び右脚 1 7 B にそれぞれ結合されている。連結部材 5 1 と左脚 1 7 A との結合位置と、連結部材 5 1 と右脚 1 7 B との結合位置とは、第 1 実施形態と同様であってよい。連結部材 5 1 は上枠 2 5 の左枠 2 5 A、右枠 2 5 B 及び後枠 2 5 C の内部を通過するように構成されている。

【 0 0 9 8 】

連結部材 5 1 は中央部分において、操作部材 1 9 に掛け止めされている。左右の脚 1 7 がそれぞれ待機位置にあるときに、ユーザによって操作部材 1 9 が押し下げられると、連結部材 5 1 の中央部分が下方に引っ張られる。これにより、連結部材 5 1 の左右両端が後方に引っ張られて、左右の脚 1 7 はそれぞれ回転し、展開位置に変位する。

40

【 0 0 9 9 】

次に、このように構成したゴルフバッグ 1 及びゴルフバッグ 1 用のフレーム 5 の効果について説明する。

【 0 1 0 0 】

脚 1 7 を開くための操作部材 1 9 がフレーム本体 1 5 の上部に配置されている。そのため、ユーザは容易に脚 1 7 を開くことができる。更に、連結部材 5 1 は上枠 2 5 の内部を通過するように構成されているため、伝達部材 4 9 によってゴルフバッグ本体 3 の開口 7 が狭められることが防止できる。

【 0 1 0 1 】

50

## &lt; &lt; 第 3 実施形態 &gt; &gt;

第 3 実施形態に係るゴルフバッグ 1 及びゴルフバッグ 1 用のフレーム 5 は、図 9 に示すように、支柱 3 1 及び第 3 副部 3 7 それぞれの構成と、グリップ 1 9 D の代わりに操作部材 1 9 及び支柱 3 1 を接続するグリップ部材 2 0 1 が設けられている点とが異なり、他の構成については同様である。よって、他の構成については説明を省略する。

## 【 0 1 0 2 】

フレーム本体 1 5 は、パイプ材によって構成された主部 2 1 と、主部 2 1 に結合された第 1 副部 3 3 及び第 2 副部 3 5 ( 不図示 ) とを備えている。第 1 副部 3 3 及び第 2 副部 3 5 は第 1 実施形態と同様である。

## 【 0 1 0 3 】

主部 2 1 は第 1 実施形態と同様に、上枠 2 5、下枠 2 7 ( 不図示 )、及び複数の支柱 3 1 を備える。上枠 2 5 は、第 1 実施形態と同様に、ゴルフバッグ本体 3 の開口 7 の側縁に沿って延在している。上枠 2 5 は中空のパイプ材によって構成され、第 1 実施形態と同様、伝達部材 4 9 は貫通孔 5 5 を介して上枠 2 5 の内部に挿通されている。

## 【 0 1 0 4 】

本実施形態では、主部 2 1 はフレーム本体 1 5 の前部に位置する左右一対の前側支柱 3 1 F と、フレーム本体 1 5 の後部に位置する 1 つの後側支柱 3 1 G とを備えている。前側支柱 3 1 F はそれぞれ第 1 実施形態の第 3 支柱 3 1 C 及び第 4 支柱 3 1 D と同様の機能を奏する。後側支柱 3 1 G は上枠 2 5 の後端部、詳細には、後枠 2 5 C の左右中央部分に結合されている。後側支柱 3 1 G は上枠 2 5 から後方に延びた後、更に、下方に延び、下枠 2 7 に接続されている。

## 【 0 1 0 5 】

第 3 副部 3 7 は後側支柱 3 1 G の上部に設けられている。第 3 副部 3 7 は後側支柱 3 1 G の上部にて、外面を覆う筒状をなしている。

## 【 0 1 0 6 】

上枠 2 5 は、第 1 実施形態と同様に、左右一対の左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B ( 合わせて左右枠 ) と、後枠 2 5 C とを備え、上面視で U 字状をなしている。左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B はそれぞれ前後方向に延在し、後枠 2 5 C は左枠 2 5 A の後端及び右枠 2 5 B の後端を接続している。

## 【 0 1 0 7 】

操作部材 1 9 は左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B の間に、左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B それぞれに、前後に摺動可能に支持されている。第 1 実施形態と同様に、操作部材 1 9 が前位置にあるときには、2 つの脚 1 7 がそれぞれ閉じられた待機位置となる。操作部材 1 9 が前位置より後方の後位置にあるときには、2 つの脚 1 7 が開かれた展開位置となる。

## 【 0 1 0 8 】

本実施形態では、操作部材 1 9 は左右一対の結合部 1 9 E と、左右の結合部 1 9 E を接続する接続部 1 9 F とを備えている。結合部 1 9 E は左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B それぞれに沿って延在し、左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B のそれぞれに摺動可能に結合されている。

## 【 0 1 0 9 】

図 1 0 には、結合部 1 9 E の分解斜視図が示されている。図 1 0 に示すように、結合部 1 9 E はそれぞれ 2 つの半割の筒状部材 1 9 G が螺子 1 9 H によって結合されることによって構成されている。筒状部材 1 9 G の下部には伝達部材 4 9 を収容するための溝 1 9 J が設けられている。2 つの筒状部材 1 9 G が結合されることによって、伝達部材 4 9 を収容するための貫通孔 1 9 K が形成される。結合部 1 9 E 材が上枠 2 5 に結合されたときには、貫通孔 1 9 K は左枠 2 5 A 及び右枠 2 5 B に沿ってそれぞれ延在している。

## 【 0 1 1 0 】

接続部 1 9 F は上面視で前方に向けて開口する U 字状をなす線状部材によって構成されている。接続部 1 9 F は両端においてそれぞれ結合部 1 9 E に結合されている。接続部 1 9 F はその後端部に加わる荷重に応じて弾性変形可能に構成されているとよい。

## 【 0 1 1 1 】

10

20

30

40

50

接続部 19 F は左側の結合部 19 E の貫通孔 19 K と右側の結合部 19 E の貫通孔 19 K とに連通する 1 つの貫通孔（不図示）が設けられたパイプ状をなしている。伝達部材 49 は左側の結合部 19 E の貫通孔 19 K、結合部 19 E の貫通孔、及び、右側の結合部 19 E の貫通孔 19 K にそれぞれ挿通されている。これにより、図 9 に示すように、伝達部材 49 は、操作部材 19 の結合部 19 E の内部にて、左枠 25 A 及び右枠 25 B に沿うように配置されている。

【0112】

グリップ部材 201 は操作部材 19 と後側支柱 31 G とを接続している。グリップ部材 201 は後側支柱 31 G に回転可能に結合されている。本実施形態では、グリップ部材 201 は上端において操作部材 19 の後縁に結合され、下端において後側支柱 31 G に左右方向に延びる軸線 203 を中心として回転可能に結合されている。

10

【0113】

グリップ部材 201 は、操作部材 19 の前位置及び後位置との変位を妨げないように、操作部材 19 に結合されていればよく、操作部材 19 との結合態様はいかなるものであってもよい。例えば、接続部 19 F が操作部材 19 の前位置及び後位置の間の変位によって弾性変形可能である場合には、操作部材 19 とグリップ部材 201 は互いに固定されていてもよい。また、グリップ部材 201 の上端に接続部 19 F を挿通させるための貫通孔が左右方向の延在するように設けられ、接続部 19 F はその貫通孔に挿通されていてもよい。これにより、接続部 19 F は操作部材 19 に対して左右方向にスライド移動可能に結合されていてもよい。

20

【0114】

次に、このように構成したゴルフバッグ 1 及びゴルフバッグ 1 用のフレーム 5 の効果について説明する。

【0115】

ユーザがグリップ部材 201 と後側支柱 31 G を把持すると、グリップ部材 201 が下端を中心として上端が後方に移動するように回転し（図 9 の矢印を参照）、操作部材 19 が後方に移動する。これにより、操作部材 19 が前位置から後位置に移動し、脚 17 はそれぞれ待機位置から展開位置に移動する。ユーザがグリップ部材 201 と後側支柱 31 G との把持を止めると、第 1 実施形態と同様に、付勢部材の付勢力や重力などによって、脚 17 はそれぞれ展開位置から待機位置に移動する。

30

【0116】

このように、グリップ部材 201 と後側支柱 31 G とを把持することで、操作部材 19 を後方に移動させることができるため、ユーザが容易に脚 17 を操作することができる。

【0117】

以上で具体的な実施形態の説明を終えるが、本発明は上記実施形態や変形例に限定されることなく、幅広く変形実施することができる。各部材や部位の具体的構成や配置、数量、具体的制御態様などは、本発明の趣旨を逸脱しない範囲であれば適宜変更可能である。

【0118】

上記実施形態では、フレーム本体 15 に車輪が設けられていなかったが、フレーム本体 15 の下部に左右一対の車輪が設けられていてもよい。左脚 17 A 及び右脚 17 B がともに展開位置にあるときには、左右の車輪がともに回転不能となるように構成されていてもよい。これにより、フレーム 5 及びゴルフバッグ本体 3 が左脚 17 A 及び右脚 17 B によって支持されているときに、車輪の回転を防止することができる。

40

【0119】

上記第 3 実施形態において、後側支柱 31 G は上端にて後方に延出した後、下方に延びるように構成されていたが、この態様には限定されない。図 11 に示すように、後側支柱 31 G は上枠 25 から直接下方に延びるように構成されていてもよい。

【0120】

上記第 3 実施形態において、主部 21 に 3 つの支柱が設けられていたが、本発明は支柱の数には限定されない。例えば、第 1 実施形態と同様に、図 12 に示すように、主部 21

50

には４つの支柱３１が設けられていてもよい。その場合には、第１実施形態と同様の第３副部３７がフレーム本体１５の後部に配置された支柱３１に設けられていてもよい。

【０１２１】

また上記第１実施形態において、第１支柱３１Ａ及び第２支柱３１Ｂがそれぞれ上端において上枠２５に結合されるように構成されていたがこの態様には限定されない。例えば、図１３の第３実施形態の変形例に示すように、第１支柱３１Ａ及び第２支柱３１Ｂはそれぞれ、上端において、上枠２５の下縁に沿って延在するように屈曲されて、上枠２５（詳細には、左枠２５Ａ及び右枠２５Ｂそれぞれ）の下縁に結合されていてもよい。

【０１２２】

また図１３に示すように、第１支柱３１Ａ及び第２支柱３１Ｂはそれぞれ上枠２５のとの結合部分において屈曲し、下方に向かって後方に傾斜する方向に延びた後、下方に向かって前方に傾斜する方向に延びて、下枠２７（不図示）に結合されていてもよい。

【０１２３】

上記実施形態において、伝達部材４９の少なくとも一部において、開口７の縁部に沿って延在する場合を例示して説明したが、本願発明はこの態様には限定されない。伝達部材４９の全長に渡って、開口７の縁部に沿って延在していてもよく、また、伝達部材４９が開口７の中央を横切らない態様であればいかなる態様であってもよい。具体的には、例えば、伝達部材４９が開口７を画定する縁部から下側にオフセットした位置に沿って延在するように構成されていてもよい。伝達部材４９は少なくとも一部において、ゴルフバッグ本体３を構成する部材（シート状部材や樹脂部材等）の外縁に沿って延在していてもよい。また、伝達部材４９は少なくとも一部において、ゴルフバッグ本体３を構成する部材の内縁に沿って延在していてもよい。その他、伝達部材４９は少なくとも一部において、ゴルフバッグ本体３を構成する部材の内部に収容されていてもよい。

【０１２４】

また、本発明はゴルフバッグ本体３の上下方向の長さや、開口７の大きさ、形状等には限定されない。その他、本発明はゴルフバッグ１に収容されるクラブの本数には限定されない。上記実施形態では、キャディバッグを構成するゴルフバッグ１に本発明を適用した例について記載したが、本発明はゴルフクラブを収容するためのあらゆるバッグに適用可能である。ゴルフバッグ１は、いわゆるキャディバッグの他、例えば、ユーザがゴルフクラブを１本から数本選んで持ち運ぶために使用されるケース（いわゆるゴルフクラブケース）を構成してもよい。

【符号の説明】

【０１２５】

- １       ：ゴルフバッグ
- ３       ：ゴルフバッグ本体
- ５       ：フレーム
- ７       ：開口
- １５      ：フレーム本体
- １７      ：脚
- １７Ａ    ：左脚
- １７Ｂ    ：右脚
- １９      ：操作部材
- １９Ｄ    ：グリップ（グリップ部）
- ２５      ：上枠
- ２５Ａ    ：左枠
- ２５Ｂ    ：右枠
- ４９      ：伝達部材
- ５３      ：付勢部材
- ２０１    ：グリップ部材

10

20

30

40

50

**【要約】**

**【課題】**ゴルフバッグ本体を支持する展開位置に変位可能な脚を備え、脚を容易に展開位置に変位させることができるゴルフバッグ及びゴルフバッグ用のフレームを提供する。

**【解決手段】**ゴルフバッグ 1 であって、ゴルフクラブが挿入されるゴルフバッグ本体 3 と、ゴルフバッグ本体を上側に開口 7 が位置するように支持するフレーム本体 15 と、待機位置及びフレーム本体を支持可能な展開位置の間に変位可能に、フレーム本体の一方の側にて枢支された一対の脚 17、17A、17B と、フレーム本体の他方の側の上部にて、所定方向に変位可能に設けられた操作部材 19 と、操作部材の変位によって、脚を待機位置から展開位置に変位させるべく、少なくとも一部において開口の側縁に沿って延在する伝達部材 49 と、を有する。

10

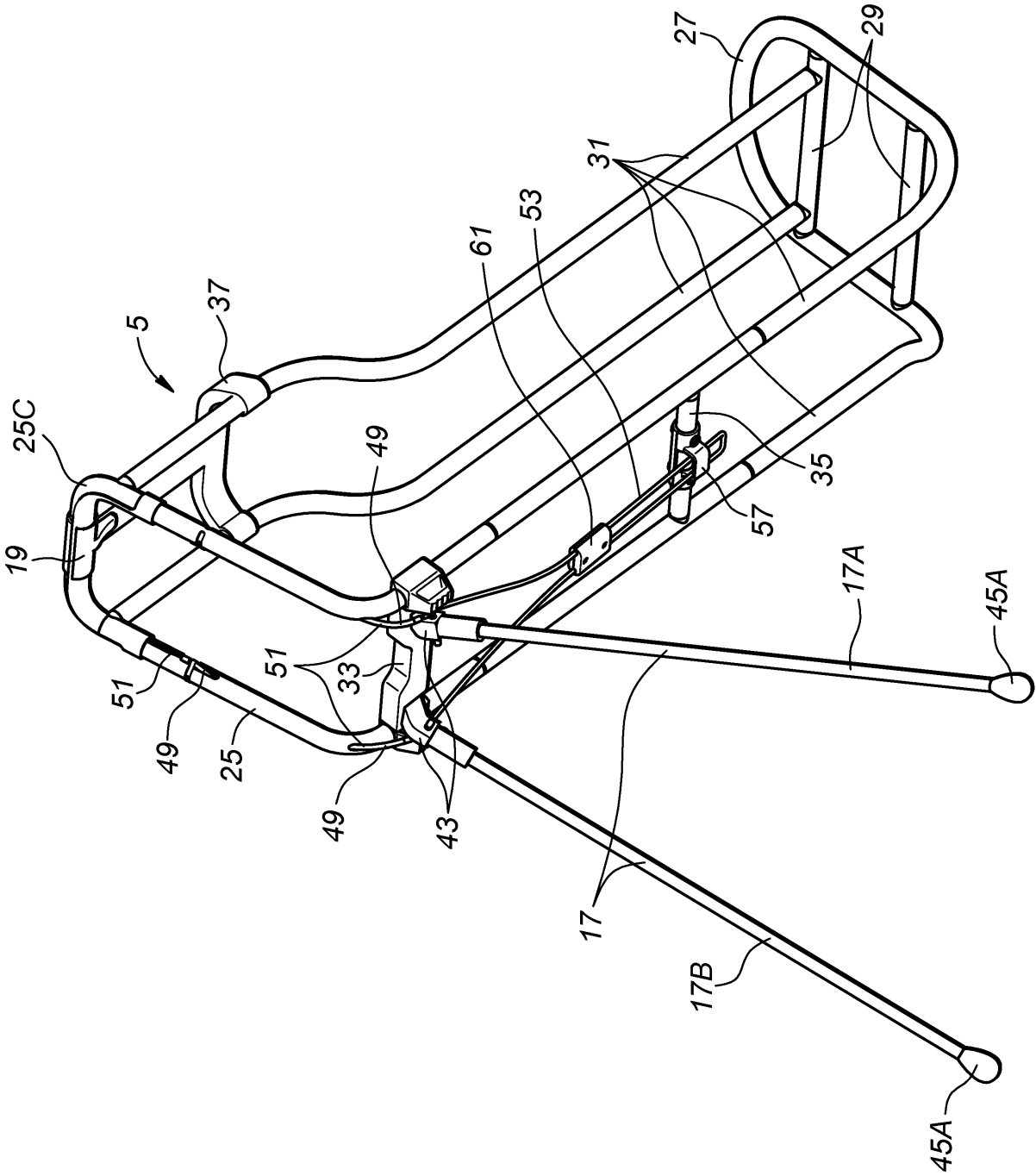
**【選択図】**図 5

20

30

40

50



10

20

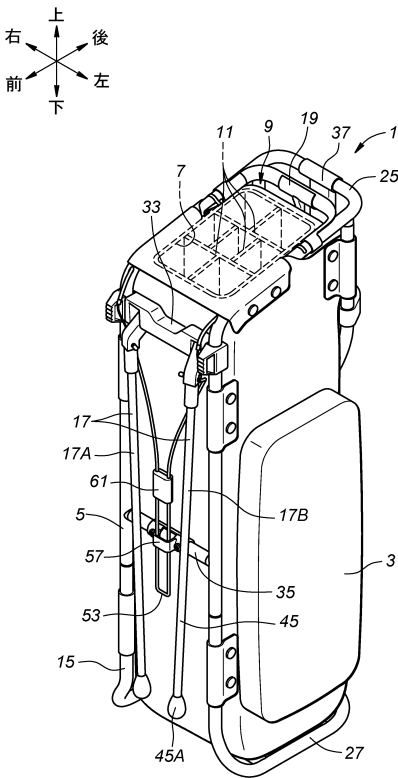
30

40

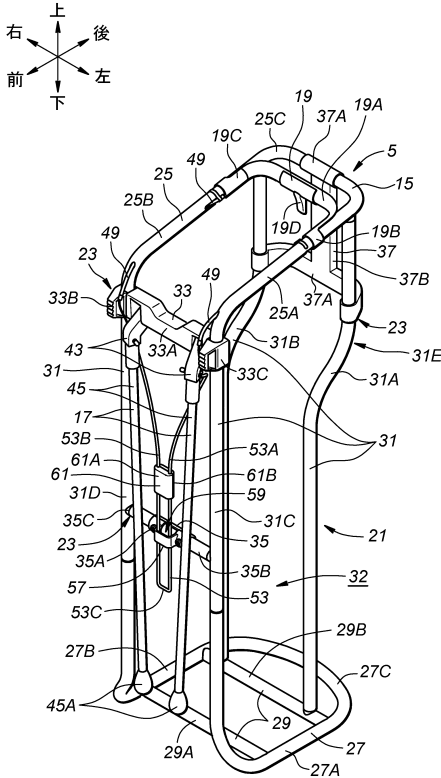
50

【図面】

【図 1】



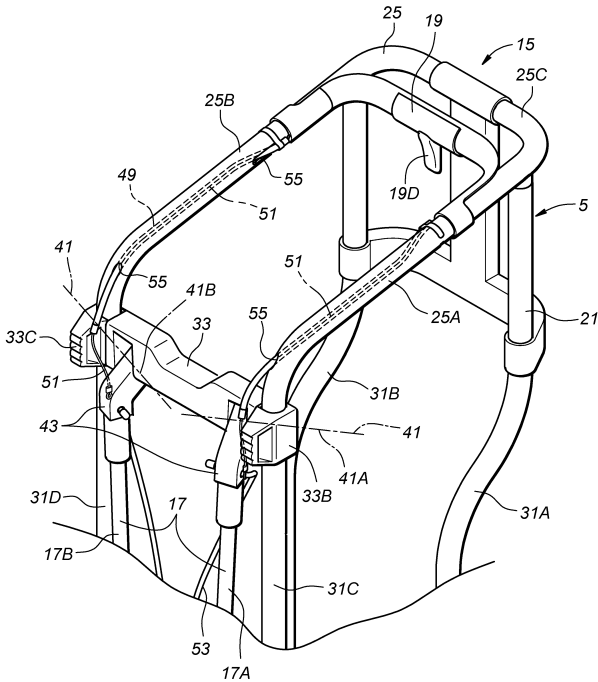
【図 2】



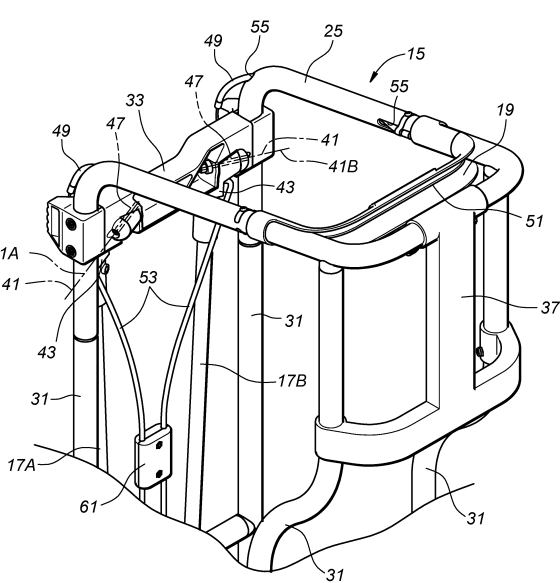
10

20

【図 3】



【図 4】

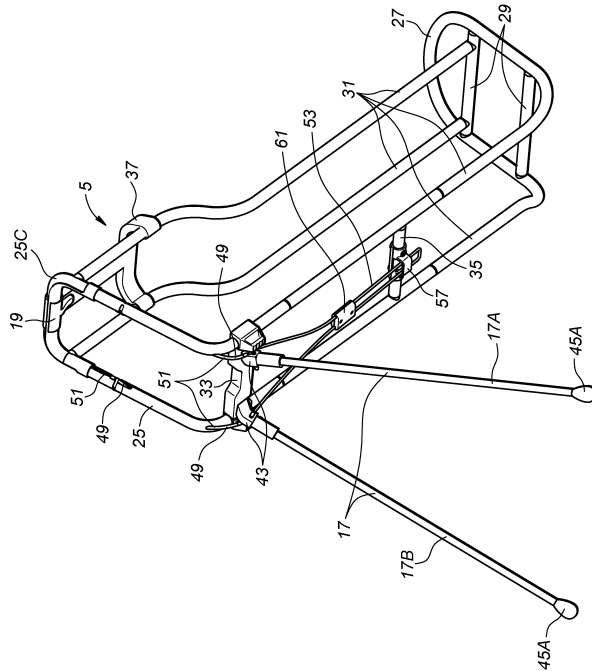


30

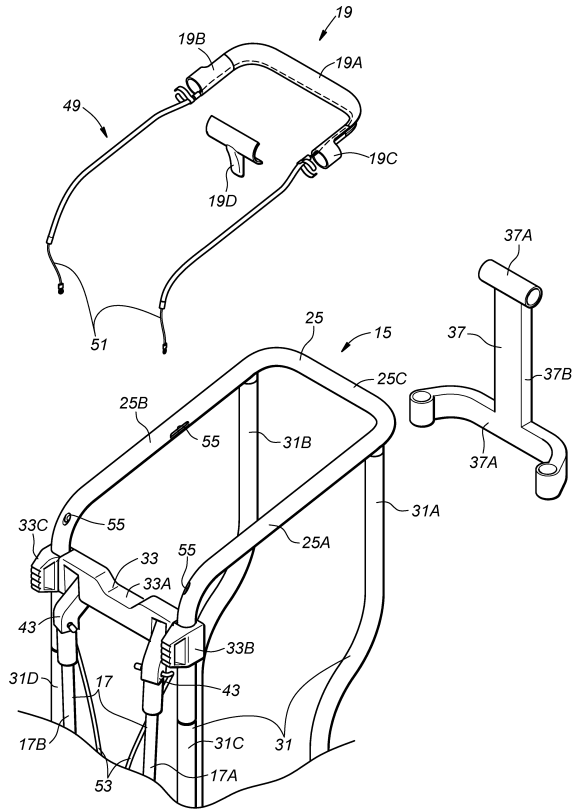
40

50

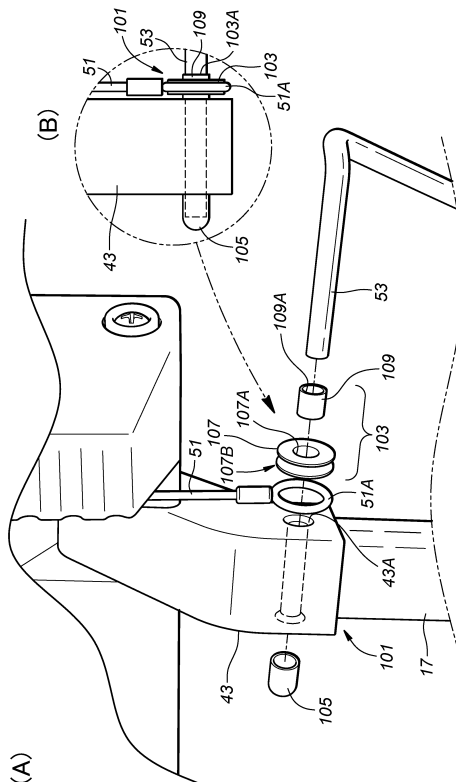
【 図 5 】



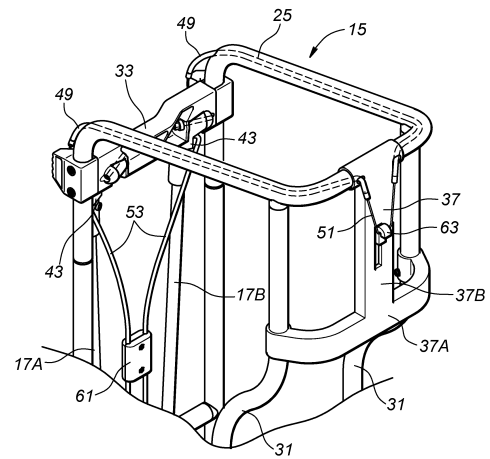
【 図 6 】



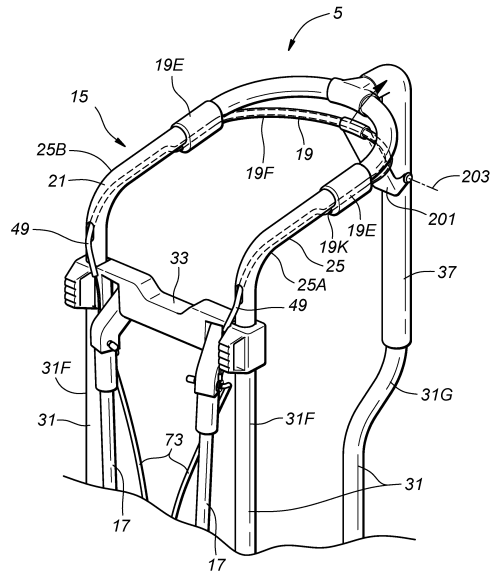
【圖 7】



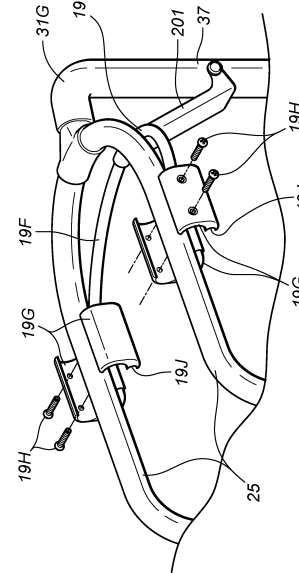
【 図 8 】



【 図 9 】

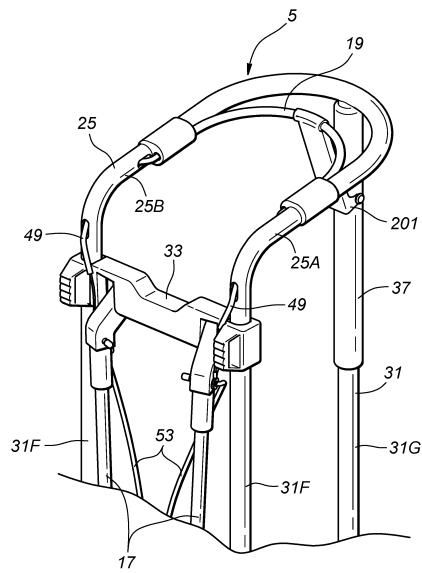


【 図 1 0 】

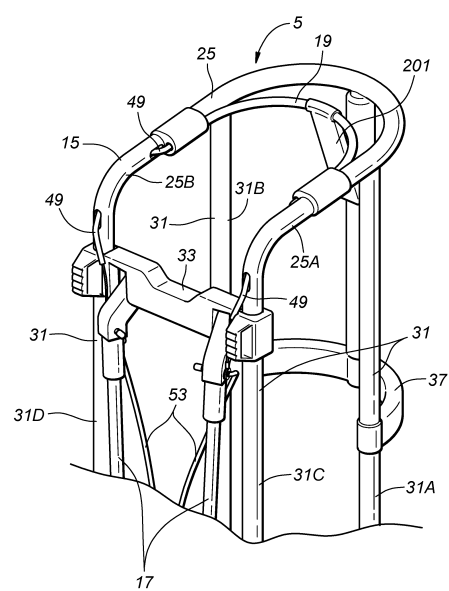


10

【 図 1 1 】



【 図 1 2 】

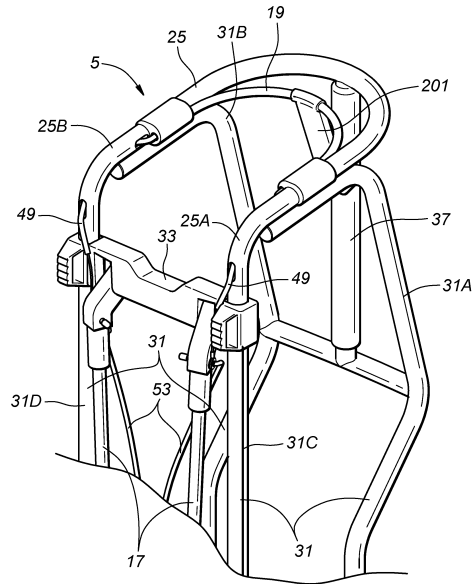


20

30

40

【 図 1 3 】



10

20

30

40

50

---

フロントページの続き

- (56)参考文献 米国特許第 6 2 9 6 1 1 6 ( U S , B 1 )  
米国特許第 6 6 5 2 0 4 5 ( U S , B 1 )  
米国特許出願公開第 2 0 0 4 / 0 1 7 8 0 9 4 ( U S , A 1 )  
米国特許第 5 6 0 5 3 1 0 ( U S , A )  
米国特許第 4 7 7 8 1 3 6 ( U S , A )  
米国特許第 2 6 6 1 1 7 4 ( U S , A )  
米国特許第 1 9 5 4 4 1 3 ( U S , A )  
米国特許第 1 6 9 3 8 8 9 ( U S , A )
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)  
A 6 3 B 5 5 / 5 0 - 5 5 / 6 0  
A 6 3 B 1 0 2 / 3 2